【内容】これまでの取り組みや問題の共有、今年度の計画作成（各校）、保健省からのプレゼンテーション（学校保健の概要）、マッピング、報告書フォーマットの説明

【補足】これまでの各校の取り組みや問題を共有し、校長自身によって、各学校における今年一年の計画を立てた。特に2日目はディリの教育局関係者、保健局関係者、地域保健センタースタッフからも参加があり、当プログラムに関して非常に積極的な姿勢がみられ、校長先生たちと一緒に議論をし、大盛況なワークショップとなった。

同活動を実施後に当会スタッフ内で行った振り返りでは、参加できなかった学校に今後どうフィードバックをするかを決定した（早急にモニタリングを行うことで対応することとした）。また、不参加の県レベルトレーナー（DTT）（昨年までのDTTの活動実績（研修や会議の参加率）を見ると、職務を怠るDTTが7~8名いる）は、交代させることも含め、これもまた早急に対処をして、プロジェクト成功のために全DTTがアクティブとなるような体制を作ることを決定した。

DTT ミーティング（申請書（3）事業内容 2-2 に該当）

【実施日】2月1日

【場所】当会エルメラ県事務所

【対象者】エルメラ県既存 DTT15名（実際の参加者は7名）

【内容】上記校長対象ワークショップで使用するプレゼンテーションの仕上げと練習、プログラム確定、担当振り分け

DTT ミーティング（同上）

【実施日】3月25日

【場所】当会エルメラ県事務所

【対象者】エルメラ県既存 DTT10名（実際の参加者は5名）

【内容】校長対象ワークショップ振り返り、学校モニタリング計画作成

DTT ミーティング（同上）

【実施日】5月2日

【場所】当会エルメラ県事務所

【対象者】エルメラ県既存 DTT26名（実際の参加者は11名）

【内容】保健担当教師対象研修について打合せ（日程、役割の割り振り、プレゼンテーションの練習など）、学校モニタリング計画作成

- 保健省、教育省主体の国レベルにおける学校保健運営能力の強化

国レベル学校保健ワーキンググループ会議（申請書（3）事業内容 4-2 に該当）

【実施日】1月17日

【場所】ディリ県

【内容】保健省、ユニセフ、学校保健に関わる NGO と当会が参加し、それぞれが昨年行った活動、今年の計画について情報共有をした。また、国レベルトレーナー（MTT）研修は2月と9月に行うことが同意された。しかし、5月10日現在、MTT 研修の講師（保健省エディ

	<p>氏)の都合がつかず、延期されている。</p> <p>国レベルワークショップ(申請書(3)事業内容4-3に該当)</p> <p>保健省・教育省と協議した結果、今年度行う予定のディリでの学校保健活動が進んだ頃に、その成果や活動状況を報告できるようなワークショップを行うことになった。よって、当初3月に予定していた国レベルワークショップは延期する。</p>
(3) 達成された効果	<p><u>成果1:ディリ県の1~9年生を対象とした学校保健県レベルトレーナー(DTT)とエルメラ県の7~9年生対象DTTが養成され、能力が強化される</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エルメラ県で7~9年生担当の新しいDTTが養成される(8名) ・ ディリ県で1~9年生担当の新しいDTTが養成される(27名) <p>→DTTトレーニングを一度実施した(参加者数:エルメラ県15名、ディリ県24名)。年内にもう一度トレーニングを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しく養成されたDTTの研修参加率が上昇する(3年次までに70%) <p>→達成(3年次まで維持または向上させる)</p> <p>ディリ県:4月8日~10日 参加率:27人中24人(88.89%) エルメラ県(新DTTのみ):4月15日~17日 参加率:17人中15人(88.2%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DTT養成研修に参加したDTTのポストテストの正答率が上昇する(3年までに65%) <p>→ディリ県 第一回DTT養成研修 プレテスト正答率 27.64% 同、ポストテスト正答率 62.27% →未達成 エルメラ県 第一回DTT養成研修 プレテスト正答率 19.39% 同、ポストテスト正答率 50.61% →未達成</p> <p><u>成果2:県レベルの学校保健関係者の学校保健運営能力が強化される</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校長対象ワークショップでの、エルメラ県(全小中一貫校と分校:133校)及びディリ県(1・2年次パイロット校2校、3年次パイロット校含む全小中一貫校と分校:89校)校長の参加率が増加する(3年次までに70%) <p>→未達成</p> <p>校長対象ワークショップの参加率は以下の通り。</p> <p>エルメラ郡 26/26校(100.0%)、アッサベ郡 7/19校(36.8%)、ハトリア郡 17/33校(51.5%)、レテフォホ郡 15/33校(45.5%)、ライラコ郡 10/13校(76.9%)、ディリ県 2/2校(100.0%)</p>

全体 77/126 校 (61.1%)

【補足】

エルメラ県の中心地であるグレノへ招待しての開催だったため、距離が遠く交通手段が無かったり、雨季のために道が通れなくなっていた等の理由で参加できなかった学校があった。来年次以降の校長対象ワークショップでは開催地を各郡に設置する、または交通手段の確保を手伝うなどし、同プロジェクト3年次までに参加率70%を目指す。

- ・ 各 DTT が担当する郡の学校（エルメラ県全小中一貫校と分校：133 校・ディリ県パイロット校：2 校）で、学校保健活動のモニタリングを実施する割合が事業開始前より増加する（DTT が全校を最低 1 回はモニタリングを行う）

→これまでのモニタリング校数（5/8 時点）

エルメラ県：延べ 37 校（うち 5 校 DTT が同行し、他は当会スタッフのみによるモニタリング。これ以降は基本的に DTT が必ず同行するような計画を立てた）

ディリ県：延べ 17 校（うち 4 校 MTT が同行し、1 校 DTT が同行した。他は当会スタッフのみでのモニタリング。パイロット校以外の学校もデータ取得や状況確認のために訪れている）

成果 3：児童の主体的な保健活動により、地域における学校保健への意識が高まる

- ・ パイロット校（エルメラ県 5 校・ディリ県 2 校）のうち、児童保健グループが結成される学校の割合が増加する（3 年次までに 100%）

→達成。2013 年 3 月中に全パイロット校（100%）で児童保健グループを結成した。

- ・ 児童保健グループが結成された学校のうち、児童保健グループ及び児童主体の保健活動を実施している学校の割合が増加する（3 年次までに 60%）

→達成（3 年次まで維持するよう努力する）。全パイロット校（100%）の児童保健グループが 2013 年 4 月中に学校が抱える保健問題について議論をし、活動計画を立てた。例えばディリ県のマンレウアナ小・中学校では、児童保健グループによる生徒の爪のチェックや爪きり、体操指導、髪の毛の長さチェックが定期的に行われている。

成果 4：国レベルの学校保健関係者の学校保健運営能力が強化される

- ・ 保健省と教育省が主催する学校保健ミーティングが、定期開催される（開始時 0 回→毎年 2 回）

→1 月 17 日に第一回目のミーティングが開催された。

<p>(4) 今後の見通し</p>	<ul style="list-style-type: none">・5月から6月にかけて、保健担当教師対象トレーニングを行い、4月に新しく養成された DTT が初めて実際に保健担当教師たちに教える場を設ける。・5月または6月中に保健省と教育省が主催する第2回学校保健ミーティングを実施し、今年前半の振り返りと、後半の予定の共有を行う。・6月または7月にエルメラ県、ディリ県それぞれで県レベル会議を開催予定。・その他、国レベルトレーナー研修、国レベルワークショップ、第2回 DTT トレーニング、第2回教員対象トレーニング、教材開発、パイロット校活動を事業1年次終了日までに順次調整し実施する予定。
-------------------	--